

2021年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略
4. 新長期ビジョン BEACON 2030

2020年11月10日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics

 NIHON KOHDEN

1

第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計 (2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	
		実績	対前年同期 増減率(%)
売上高	89,735	87,240	△ 2.8
国内売上高	67,445	56,248	△ 16.6
海外売上高	22,289	30,992	39.0
売上総利益 (売上総利益率)	43,354 48.3%	44,357 50.8%	2.3
営業利益 (営業利益率)	7,009 7.8%	8,758 10.0%	24.9
経常利益	6,334	8,215	29.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,943	5,826	47.8

(単位:百万円、単位未満切捨て)

● 為替影響除く: +43%

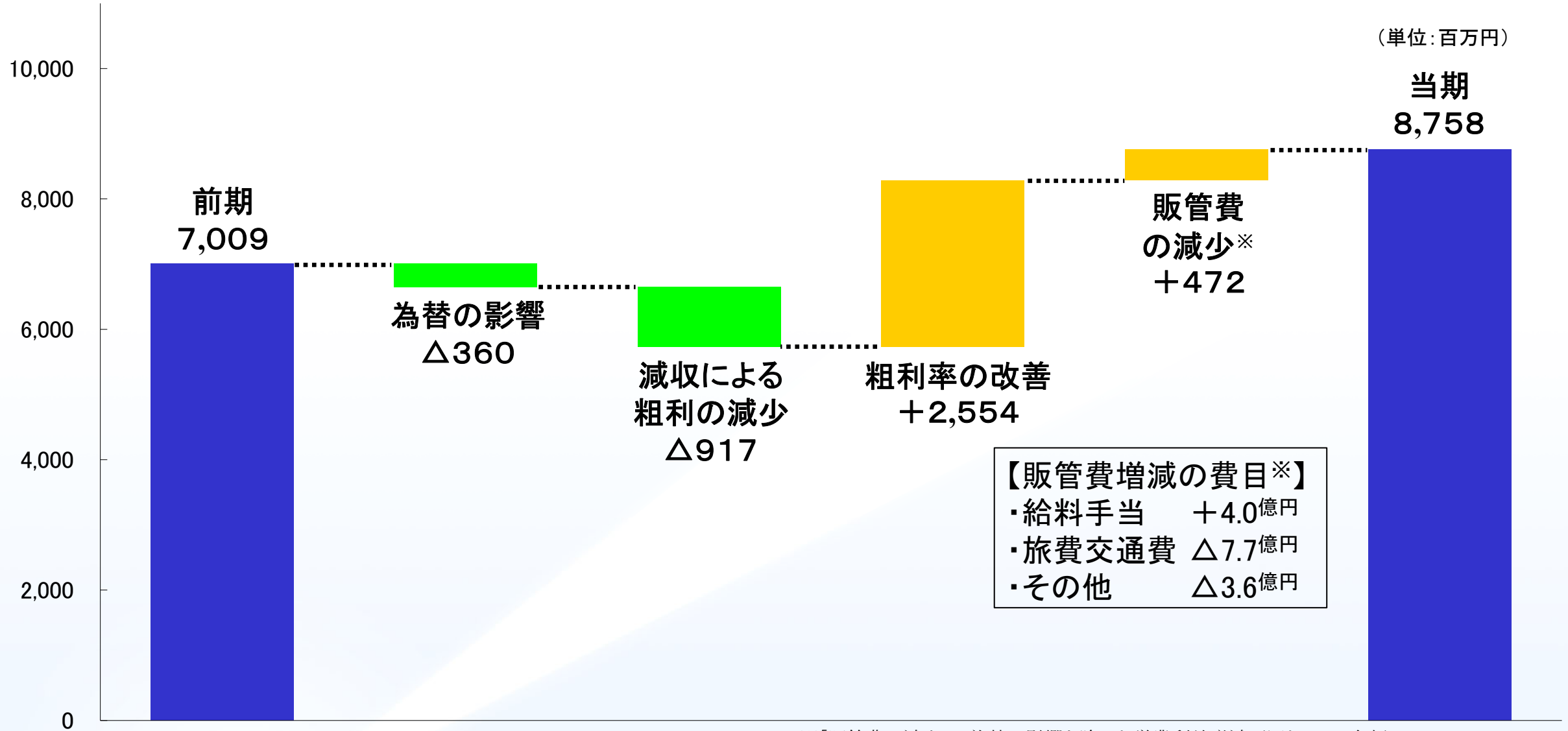
● 自社品
売上比率: 2019/9 64.3% → 2020/9 69.0%

● 販管費: 363億円 → 355億円
販管費率: 40.5% → 40.8%

● 為替差損: 855百万円 → 825百万円

平均レート	(2019/9)	(2020/9)
1米ドル	109.2円	106.9円
1ユーロ	121.9円	121.3円

2) 営業利益増減の要因分析

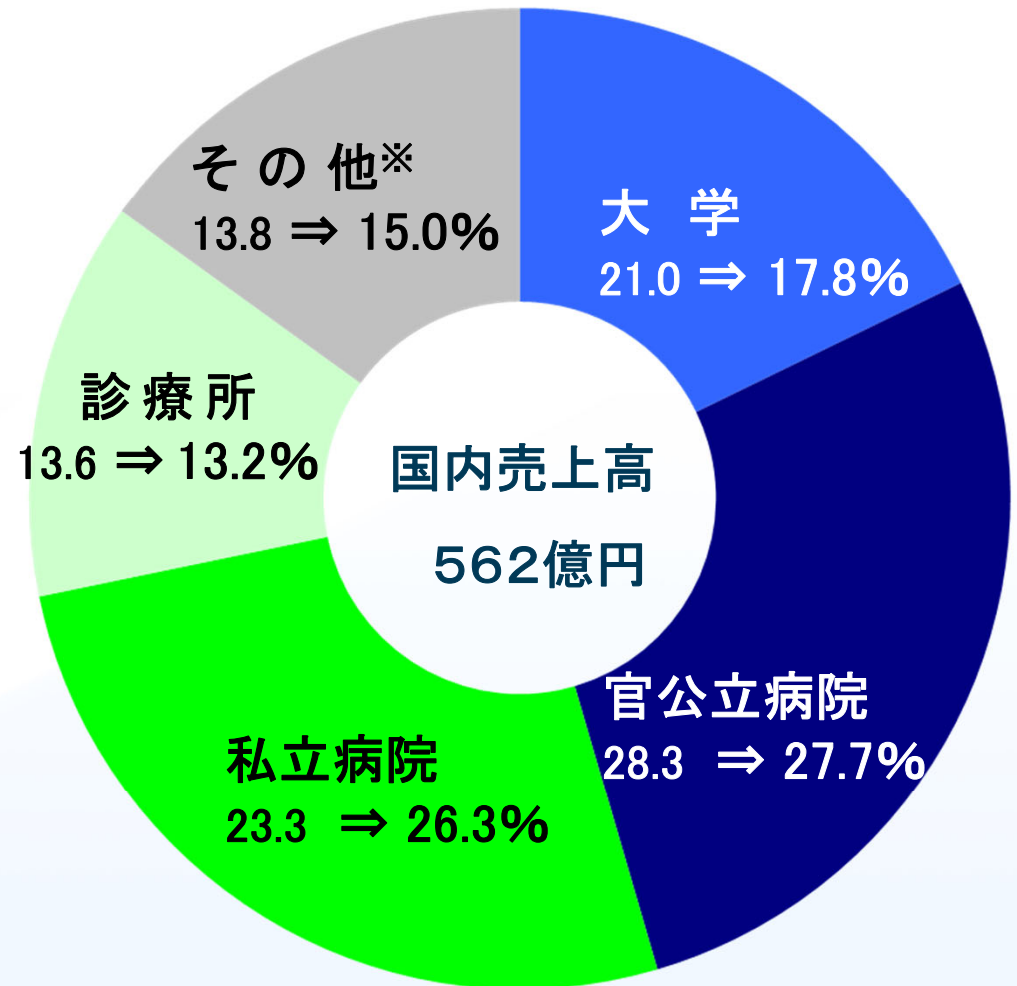
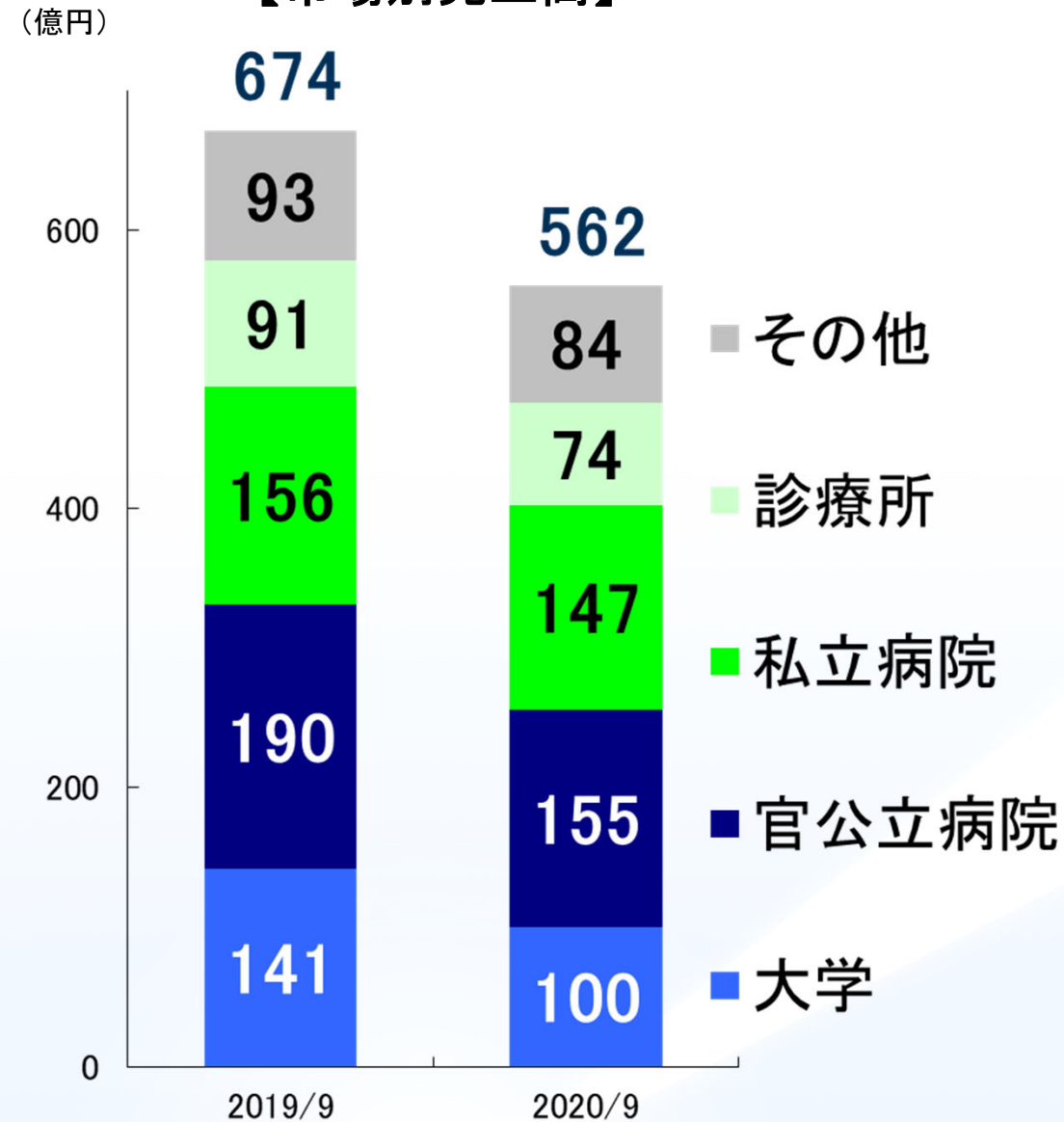


※「販管費の減少」は為替の影響を除いた営業利益増減要因としての金額、
「販管費増減の費目」は円建ての販売費及び一般管理費のうち主な増減金額を表しています。

3) 国内売上高

【市場別売上高】

市場別売上構成比
(2019/9⇒2020/9)



※その他には、研究所、動物病院、消防など行政機関のほか、AED納入先である学校や民間企業を含みます。

4) 海外売上高

【地域別売上高】

【海外売上高】

前期比+39%

(為替影響除く: +43%)

■ アジア州他 前期比+28%
(為替影響除く: +33%)

■ 欧州 前期比+65%
(為替影響除く: +66%)

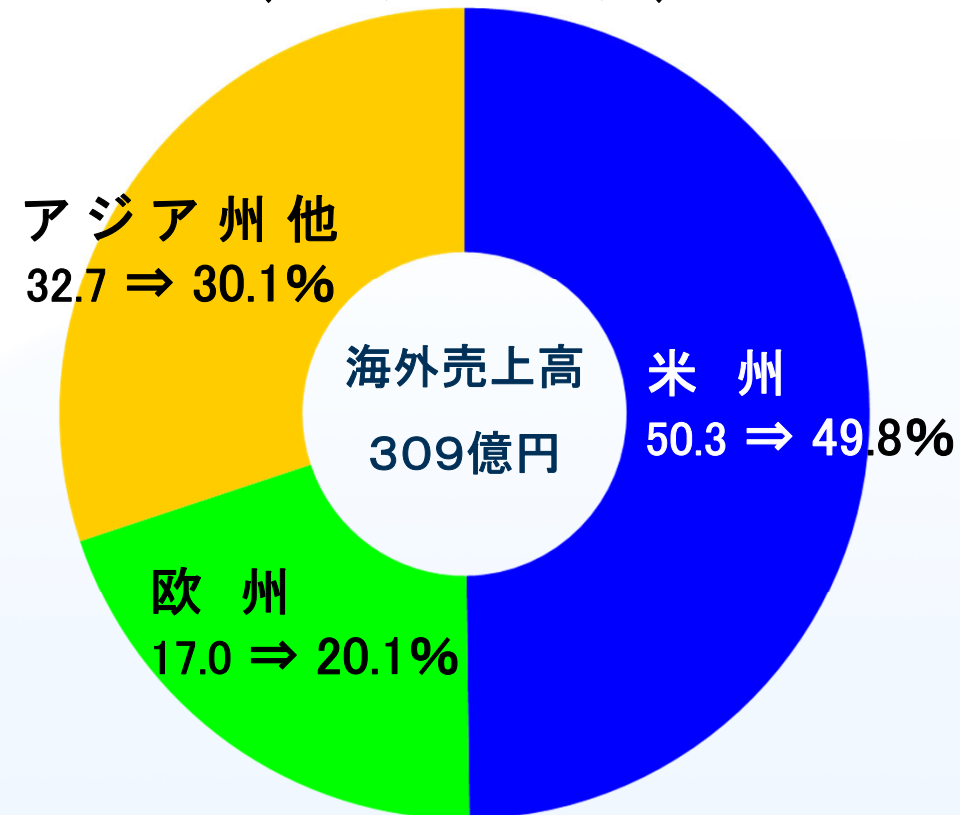
■ 米州 前期比+37%
(為替影響除く: +42%)

海外売上高比率

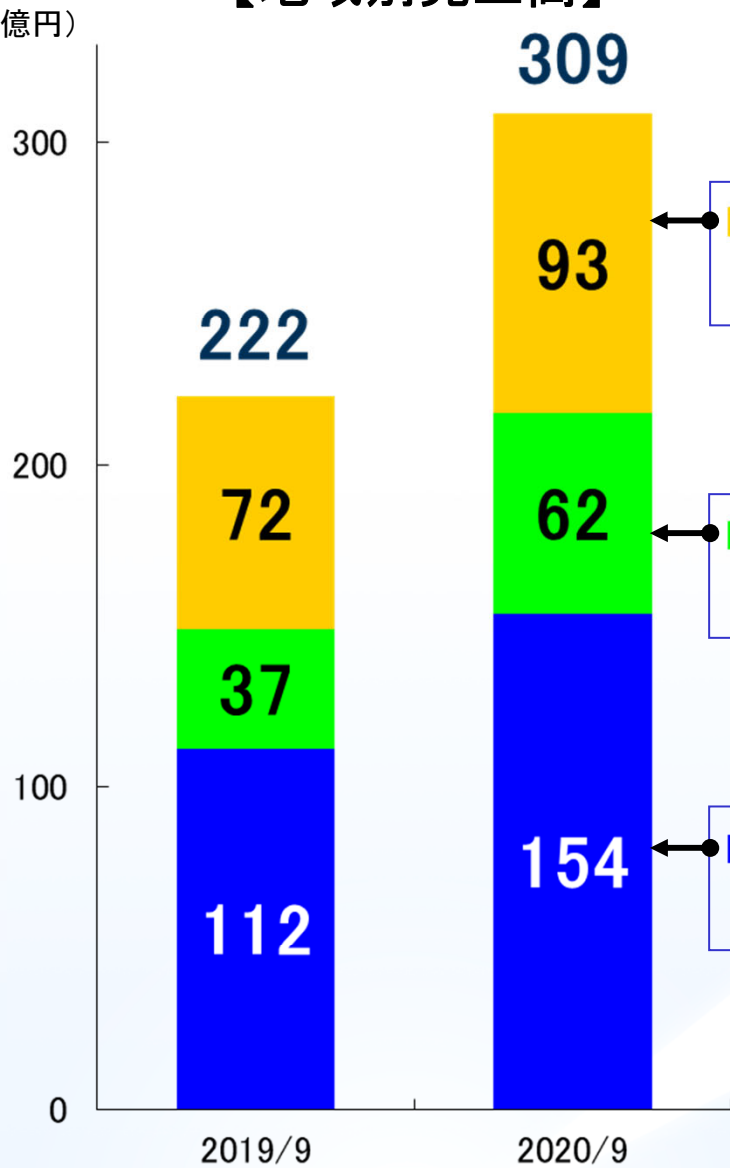
2019/9	2020/9
24.8%	35.5%

地域別構成比

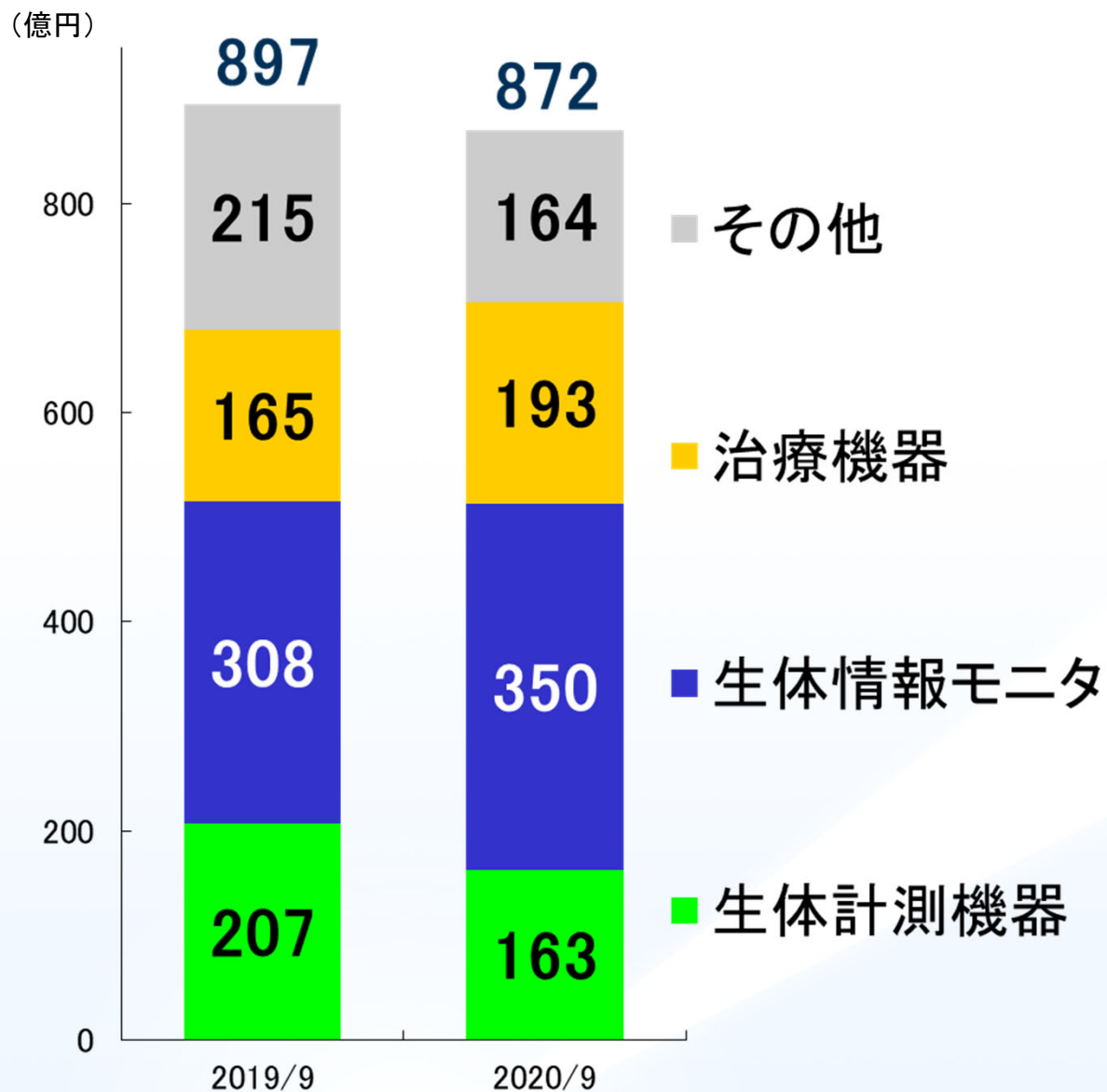
(2019/9⇒2020/9)



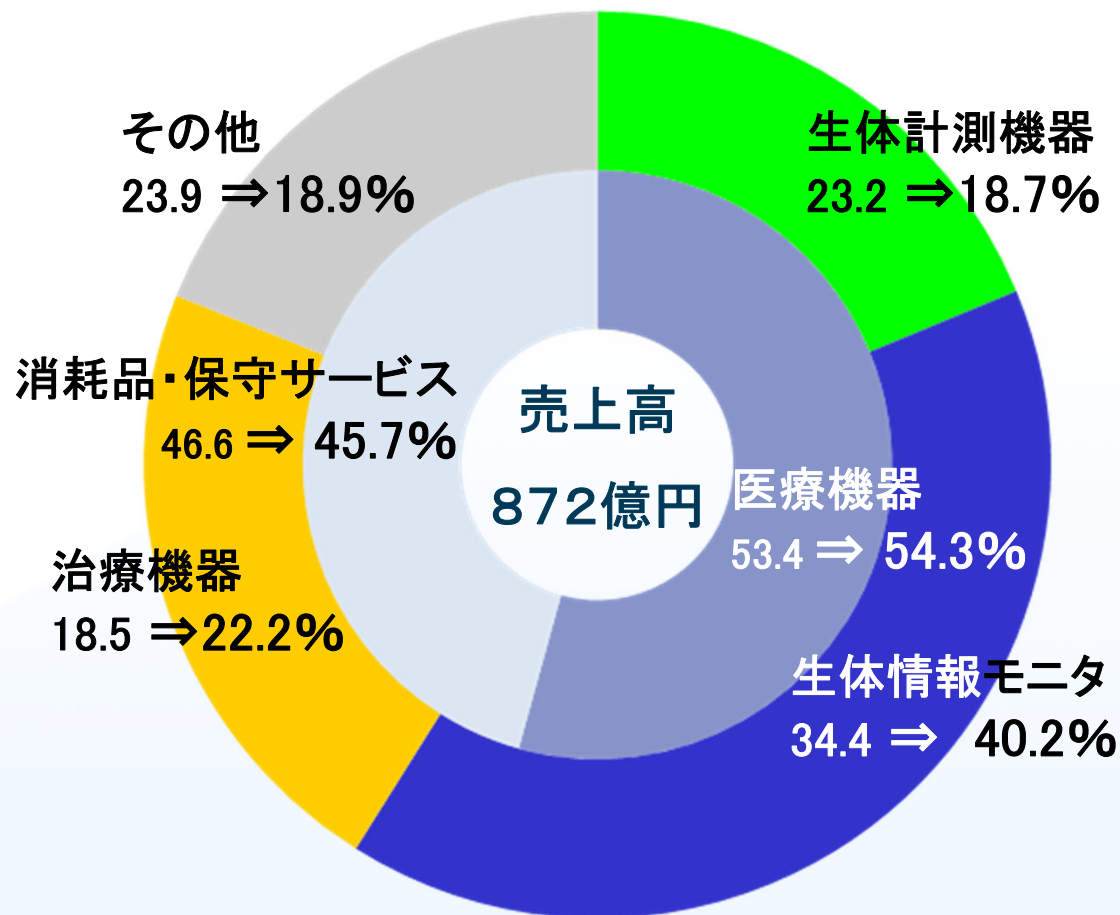
(億円)



5) 商品群別売上高



商品群別売上構成比
(2019/9⇒2020/9)



5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	増減率(%)
脳神経系群	3,620	2,666	△ 26.3
心電計群	3,380	2,962	△ 12.4
心臓カテーテル検査装置群	8,204	6,907	△ 15.8
その他(診断情報システム等)※	5,577	3,814	△ 31.6
生体計測機器合計	20,782	16,350	△ 21.3
うち国内売上高	16,627	12,625	△ 24.1
うち海外売上高	4,155	3,724	△ 10.4

(単位:百万円)

検査・手術の減少や予算執行の延期・凍結もあり、全ての商品が二桁減収。
COVID-19軽症者対策のため、パルスオキシメータ、LAVITAの需要は増加。

脳神経系群が米州、アジア州他で低調。
心電計群は全ての地域で好調に推移。

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	増減率(%)
生体情報モニタ合計	30,855	35,067	13.6
うち国内売上高	19,984	17,276	△ 13.6
うち海外売上高	10,870	17,790	63.7

(単位:百万円)

前年同期が好調だった反動により、臨床情報システム、ベッドサイドモニタが大幅減収。医用テレメータ等は好調。

全ての地域で二桁成長。特に、欧州、中近東、中南米での売上が倍増。



CSM-1501 CSM-1502 CSM-1701 CSM-1702

ベッドサイドモニタ
CSM-1500/1700



ベッドサイドモニタ
PVM-4000



スポットチェックモニタ
SVM-7200



医用テレメータ
WEP-1400



NEW!
esCCO対応 SpO₂プローブ cap-ONE バイトブロック 心電図電極

消耗品関連

5.3) 治療機器

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	増減率(%)
医科向け除細動器	2,879	3,049	5.9
A E D	7,479	6,885	△ 7.9
ペースメーカー・ICD	1,625	1,366	△ 15.9
人工呼吸器	1,603	5,317	231.6
その他の	2,970	2,705	△ 8.9
治療機器合計	16,558	19,324	16.7
うち国内売上高	11,922	12,277	3.0
うち海外売上高	4,635	7,047	52.0

【国内】好調だった前年同期からの反動減。
 【海外】全ての地域で好調。特に、アジア州
 他、中南米で二桁成長。

【国内】更新商談の受注もあり好調に推移。
 【海外】全ての地域で需要が減少。

【国内】補正予算の寄与もあり、
 ハミルトン社製、自社製ともに好調に推移。
 【海外】全ての地域で需要が急増。一定の
 事業規模に成長。

(参考) AED 販売台数	45,000台	39,400台	△ 12.4
うち国内販売台数	26,200台	28,200台	7.6



除細動器
EMS-1052



AED
AED-3150



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



パルスチェッカー
PLS-1100



人工呼吸器
HAMILTON-C6



人工呼吸器
NKV-330



人工呼吸器
NKV-550

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	増減率(%)
検体検査装置	4,884	4,451	△ 8.9
画像診断装置、 研究用機器他 [※]	16,655	12,047	△ 27.7
その他合計	21,539	16,499	△ 23.4
うち国内売上高	18,911	14,068	△ 25.6
うち海外売上高	2,628	2,430	△ 7.5

(単位:百万円)

前年同期の大口商談の反動や自社品販売の注力により、現地仕入品が大幅減収。

需要・検査数の減少により、血球計数器・試薬が全ての地域で前年同期を下回る。

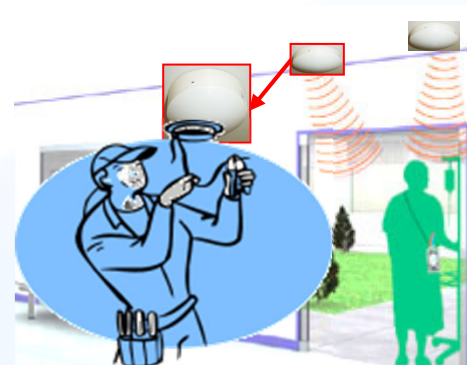
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



全自動血球計数器
MEK-9100



全自動血球計数・
免疫反応測定装置
MEK-1303



設置工事・保守サービス

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2020/3	当第2四半期末 2020/9	増減額		前期末 2020/3	当第2四半期末 2020/9	増減額
流動資産	129,020	128,958	△ 62	流動負債	40,319	36,081	△ 4,238
たな卸資産	29,249	36,303	7,054	有利子負債	350	350	—
有形固定資産	20,003	20,014	10	固定負債	5,692	5,577	△ 115
無形固定資産	4,149	3,883	△ 266	純資産	121,774	126,853	5,078
投資その他資産	14,612	15,656	1,043				
資産合計	167,786	168,512	725	負債・純資産合計	167,786	168,512	725
たな卸資産回転月数	3.7ヵ月	4.9ヵ月		自己資本比率	72.6%	75.3%	

7) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

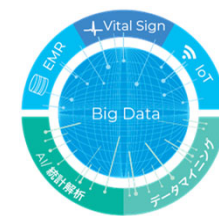
	前第2四半期 累計(2019/9)	当第2四半期 累計(2020/9)	2020/3 前期実績	2021/3予想	
				期初	11月6日修正
設備投資額	1,609	1,472	3,549	3,900	3,900
減価償却費	1,695	1,496	3,597	3,600	3,600
研究開発費	3,162	3,069	6,731	7,000	7,200

●2021/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備(需要の増加に伴う人工呼吸器2機種・生体情報モニタの生産増強を含む)

【期初計画と11/6修正計画との差異】

・研究開発費+2億円:
長期ビジョンで掲げる
デジタル技術の開発を加速



<人工呼吸器・生体情報モニタの増産支援>

- 人工呼吸器の架台 1,000台供給
(本田技研工業)
- 人工呼吸器・生体情報モニタ
生産工程の改善指導
(TPS(トヨタ生産方式)支援チーム)



2

通期の業績見通し

1) 経営環境

国内

海外

上期

下期

- ➖ 5月末まで不急の営業・サービス活動を自粛、オンライン営業活動を開始
- ➖ カテーテル・ペースメーカー・ICD売上
Q1: $\Delta 23\%$ → 上期: $\Delta 16\%$ (前年同期比)
- ➕ COVID-19対応の補正予算を受け、人工呼吸器、医用テレメータ等の商談が増加

患者の
受診抑制

医療機関の収益回復に
時間がかかる見通し

- ➖ COVID-19対応以外の一部商談で、予算執行の延期・凍結の見通し

- ➕ 生体情報モニタ、人工呼吸器の商談が大幅増
- ➖ 脳波計や血球計数器の需要が減少
- ➖ PAD市場でのAEDの需要が減少
- ± 受注案件で一部キャンセル発生、第2波の欧州で、生体情報モニタ、人工呼吸器の新たな問い合わせ

集中治療体制の強化・整備

経済の
停滞・悪化

政府予算の縮小・
設備投資抑制の懸念

- ➖ Q4以降、反動減が発生する見通し

国内、海外ともに、感染再拡大の状況を注視

2) 通期の業績見通し

(単位:百万円)

	2020/3 前期実績	2021/3予想		増減率 (%)
		期初	11月6修正	
売上高	185,007	180,000	184,000	△ 0.5
国内売上高	134,355	126,200	127,200	△ 5.3
海外売上高	50,651	53,800	56,800	12.1
売上総利益 (売上総利益率)	89,325 48.3%	87,200 48.4%	91,300 49.6%	2.2
営業利益 (営業利益率)	15,503 8.4%	14,000 7.8%	16,500 9.0%	6.4
経常利益	14,846	14,000	16,500	11.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,854	10,000	11,000	11.6

← 為替影響除く: +15%

【地域別海外売上高】

	2020/3 前期実績	2021/3予想		増減率 (%)
		期初	11月6日修正	
米州	24,731	26,600	28,100	13.6
欧州	9,044	8,800	10,300	13.9
アジア州他	16,876	18,400	18,400	9.0
海外計	50,651	53,800	56,800	12.1

(下期)

106円

124円

※2021/3期から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。

海外売上高比率	27.4%	29.9%	30.9%
---------	-------	-------	-------

平均レート

1米ドル	109.1円	107円	106円
1ユーロ	121.1円	117円	122円

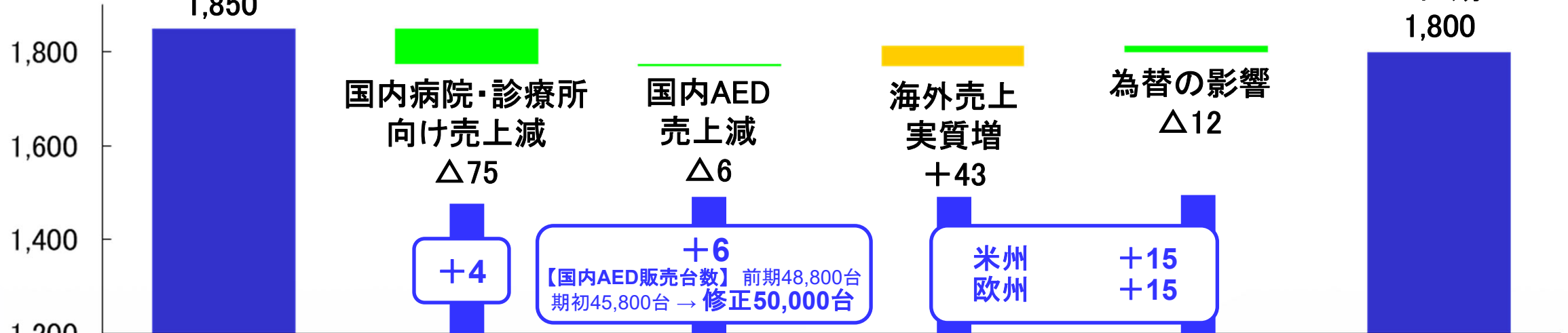
3) 売上見通しの要因分析

(単位: 億円)

【期初予想】

前期
1,850

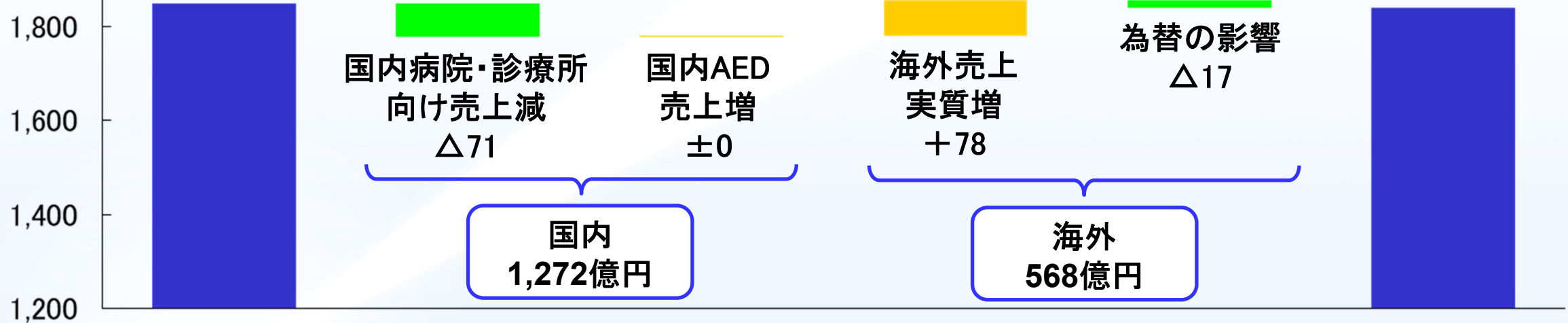
当期
1,800



【今回修正予想】

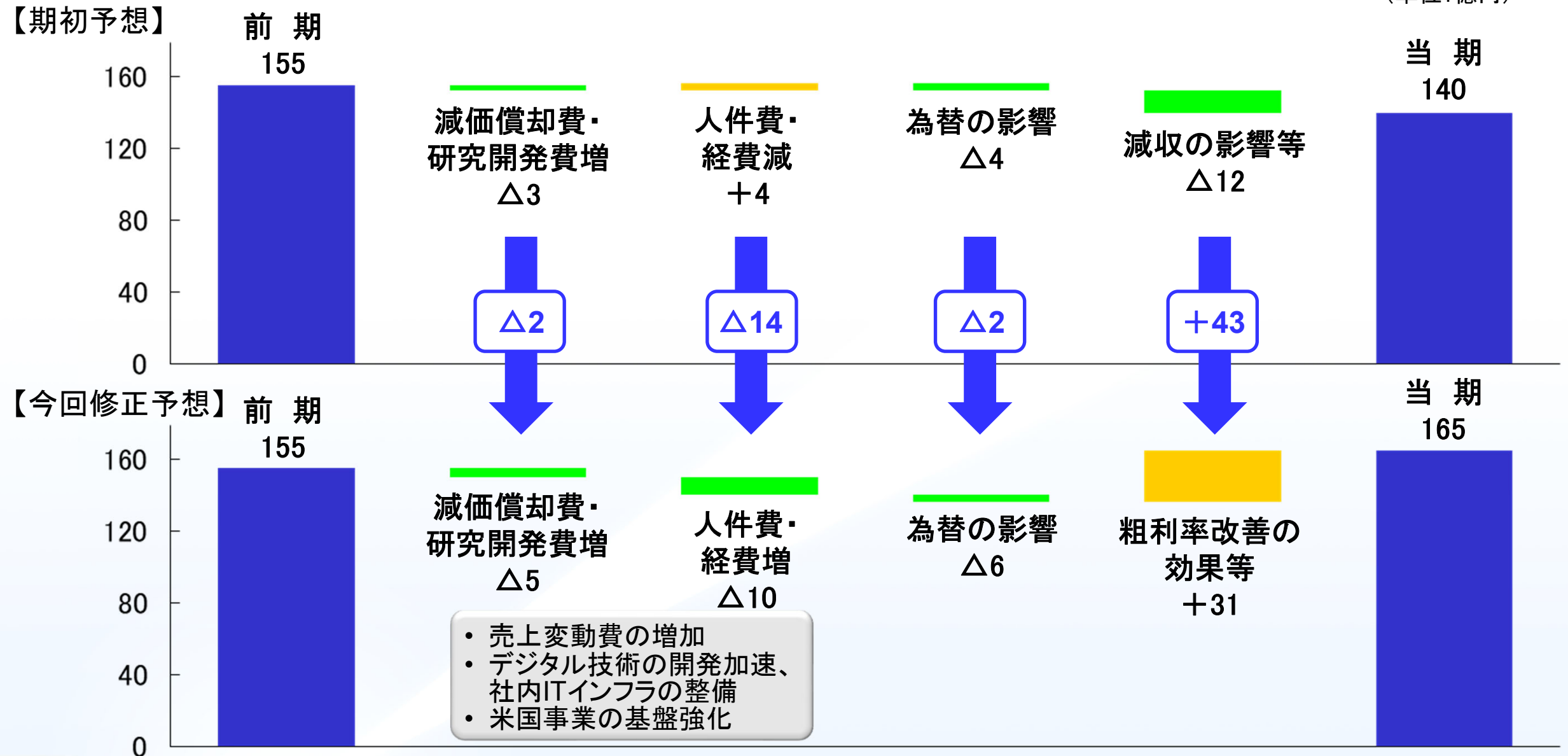
前期
1,850

当期
1,840



4) 営業利益見通しの要因分析

(単位: 億円)



[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2020/3 前期実績	2021/3予想			増減率(%)
		期初	11月6日修正	構成比(%)	
生体計測機器	42,273	37,200	36,800	20.0	△ 12.9
生体情報モニタ	64,966	68,500	70,000	38.0	7.7
治療機器	34,512	35,800	39,800	21.6	15.3
その他	43,254	38,500	37,400	20.4	△ 13.5
売上高合計	185,007	180,000	184,000	100.0	△ 0.5

(単位:百万円)

(ご参考)

消耗品・保守サービス	84,160	82,200	81,500	44.3	△ 3.2
------------	--------	--------	--------	------	-------

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.4億円	0.7億円
ユ-ロ	0.7億円	0.3億円

3

当社の経営戦略

1) COVID-19対応の基本方針

1. 従業員およびその家族の健康維持・安全確保を最優先とする
2. 医療体制の維持のため製品とサービスの供給責任を果たす



2020年2月 上海
社員が防護服を着用の上
生体情報モニタなどを納品



2020年4月 スペイン
人工呼吸器
NKV-550を納品



2020年6月 ロンドン
人工呼吸器
NKV-330を納品



2020年6月 スコットランド
人工呼吸器
NKV-550を納品

2) 当期の取り組み

既存事業における収益性の改善

新製品発売 スケジュールの遵守

- ✓ 開発効率の向上に向けた取り組みを強化



海外事業の さらなる成長

- ✓ 生体情報モニタ、人工呼吸器の設置ベース拡大
- ✓ 消耗品・サービスの提案に注力



国内事業における 顧客価値提案の推進

- ✓ オンラインセミナー開催
- ✓ 会員制ウェブサイトコンテンツの充実



2) 当期の取り組み

グローバルでの企業体質の強化

ガバナンス・経営管理体制の強化

2020年4月

- ✓ 海外子会社におけるリスク管理の監督を強化



2020年6月

- ✓ 女性社外取締役1名を選任
- ✓ 役員報酬に譲渡制限付株式報酬制度を導入

IT活用によるサプライチェーンマネジメントの向上

- ✓ ERPのグローバル展開
 - 当期はシンガポールに導入



- ✓ 国内電子取引の推進・拡大

3) 地域別事業展開の強化

日本

「医療安全」「診療実績」「業務効率」につながる顧客価値提案

COVID-19 対策

✓ 院内：病室外でのモバイル端末による参照をサポート



✓ 宿泊療養施設：別室での容態把握をサポート



✓ 感染予防ディスプレイザブル消耗品の推奨



診療実績

✓ esCCOの提供を開始 ※ esCCO: estimated Continuous Cardiac Output (非侵襲連続推定心拍出量)



- ・心電図とSpO₂脈波を使って推定
- ・感染症の恐れが低く、痛みを伴わない
- ・新たなコードが不要のため、測定が簡単、追加コストも発生せず



✓ NK-HealthProtect™の提案 NEW!

患者トリアージ ソリューション

COVID-19スクリーニング



体温、SpO₂測定による感染症患者のスクリーニングに活用

スポットチェックモニタ
SVM-7200
2019年12月発売

緊急時無線モニタリング ソリューション

救急外来サポート



Prefense® Early Detection
and Notification System※



バイタルサインテレメータ
GZ-140P

Pop-up ICU ソリューション

迅速にICUを増設



セントラルモニタ
CNS-6801



ベッドサイドモニタ
BSM-6301

✓ 医療従事者の感染リスク低減の提案

プレホスピタル～インホスピタル市場



自動心臓マッサージ装置
Lifeline ARM

NEW!



エアウェイスコープ
NK AWS-S200

NEW!



Protective Control™

人工呼吸器
NKV-550

※ Prefense® Early Detection and Notification System:

無線の送信機やバイタルサインテレメータからの生体情報を連続的にモニタリングし、急な容態変化時にはアラームで知らせ、迅速な看護をサポートするシステム。

新興国

日本・米国製、上海製の新製品の提案を強化

日本・米国製品

ハイエンド市場



上海製品

ミドル&ローエンド市場

現地開発
・生産



検体検査装置

✓ 新製品3機種を投入

2020年10月発売



NEW!

- ESR※を同時に測定できる
世界初の血球計数器 (MEK-1305)
- 新搭載 NLR (好中球/リンパ球比)
をCOVID-19重症化予測に活用
(MEK-1301/1302/1305)

CIRHEX
Technology

✓ ドバイ試薬工場の設立

2020年度Q4 生産開始予定



※ ESR (Erythrocyte Sedimentation Rate) : 赤血球沈降速度。沈降速度が速いと結核等の感染症の可能性。主に新興国で測定されている項目。

4) 利益配分の基本方針

将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮

研究
開発



- 持続的成長に向けた
製品・技術開発

設備
投資



- 人工呼吸器、
生体情報モニタ
増産体制の構築
- 情報基盤の整備

M&A
提携



- 新たな成長機会の
探索

人財
育成



- 人財の獲得、育成
など

株主
還元

長期安定配当
を継続

目標: 連結配当性向
30%以上

配当重視

自己株式の取得は
機動的に検討

年間配当金

20/3期: 35円 (配当性向: 30.2%)

21/3期(予定): 35円 (配当性向: 27.1%)

自己株式保有: 356万株
(持株比率: 4.0%)

4

新長期ビジョン BEACON 2030



長期ビジョンの名称について

ビジョンステートメントのキーワードが「てらす」であること、日本光電の社章が燈台の光を表すことから、**BEACON**（ビーコン）**2030**と名付けました。「病める人のための光とも、手立てともなろう」という想いを込めています。

ロゴについて

ビジョンステートメントのキーワードである「てらす」を光の広がりに見立て、それが大きな光の翼となり、未来に向かって飛躍していく様子を表現しました。また、モチーフとした翼は、創業のきっかけである小鳥の翼のエピソードから着想しました。配色は、光の三原色をベースに、長期ビジョンを実現するための3つのフェーズとイメージを重ねました。

長期ビジョンが出来るまで

新長期ビジョンの検討にあたっては、日本光電の将来に対する社員の想いを形にするため、パネルディスカッションなど全社員を巻き込む活動を推進しました。こうした活動で得た意見・アイデアを理解した上で、経営層と次世代リーダーが議論を重ね、**BEACON 2030**を策定しました。



illuminating Medicine for Humanity

グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する

1. 人に寄り添い、医療の未来をてらす。

臨床知識に裏づけされた課題解決力を活かし
世界の患者さんと医療従事者に深く寄り添いながら
患者アウトカムと医療経済性を追求するパートナーとして
より良い医療の未来をてらしていきます。

2. 新たな価値を共創し、命をてらす。

人と機器をつなぐHMI※技術の中核に
医療現場から得られるデータを活かし
患者さんに最適なケアサイクルを実現することで
一人ひとりの命をてらしていきます。

3. 挑戦を楽しみ、人と組織の可能性をてらす。

社員一人ひとりが医療に貢献するやりがいと誇りを持ち
世界中の仲間たちと自由闊達で創造的なチームをつくりながら
グローバルな医療課題に挑み続けることで
人と組織の可能性をてらしていきます。

※ HMI(ヒューマン・マシン・インターフェース): 人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。

2030 VALUE CREATION COMPASS

価値共創の羅針盤

KEY CONCEPT

●患者アウトカムと医療経済性

私たちが目指す価値創造は、世界共通の医療課題である患者アウトカムと医療経済性の向上を実現することです。

●疾患別・サイト別ソリューション

私たちは疾患別・サイト別の視点で検査から診断・治療・予後に至るまで、患者さん一人ひとりに最適なケアサイクルソリューションの提供を目指します。

●HMI技術と医療機器

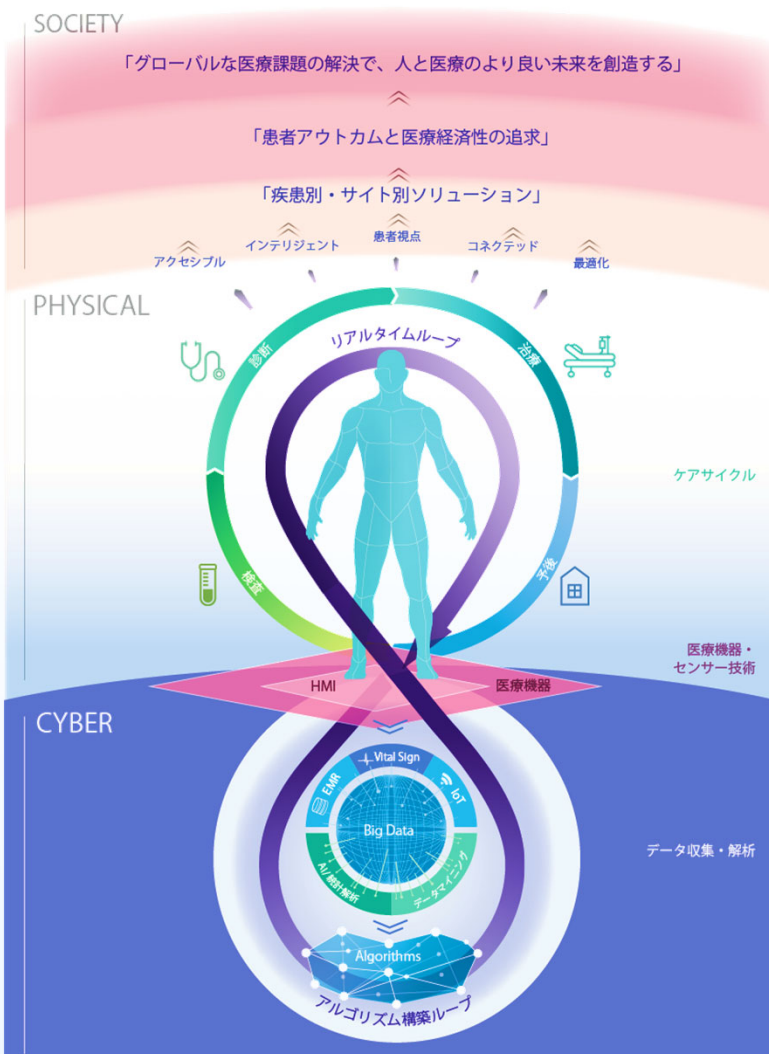
HMIは、患者さんと医療とを結びつける大切な接点であり、日本光電のコア・テクノロジーです。私たちが長年培ってきたHMI技術と医療機器(モダリティ)は、患者さんと医療現場へのアクセスを生み出す価値創造の基盤です。

●新たな価値創造～医療現場のデータから価値を生み出す～

新たな価値創造の領域として「情報から価値を生む」ためのデータ統合プラットフォームの構築とアルゴリズムの開発に取り組みます。バイタルサインデータとIoTデータを用いて、電子カルテ等の情報も集約し、ビッグデータを活用するためのプラットフォームを構築します。そして、AIやデータ分析から予知予測等の臨床価値の高いアルゴリズムを開発します。

●臨床ニーズに応えるリアルタイムループ

医療現場で使われているHMI技術と医療機器、そしてビッグデータ解析から生み出された新たなアルゴリズムを結び付け、臨床ニーズにリアルタイムに応えることのできるソリューションを提供します。



長期ビジョンの実現に向けた3つの変革

今後10年における全社経営方針として実現すべき「3つの変革」を掲げます

1 グローバルな高付加価値企業への変革

- ・ 海外事業の高成長と収益性向上を主軸とした事業戦略の推進
- ・ 国内事業における価値提案の高度化および新規事業の育成
- ・ グローバルな事業基盤を活用した新たなビジネスモデルの創出

2 顧客価値を追求するソリューション型事業への変革

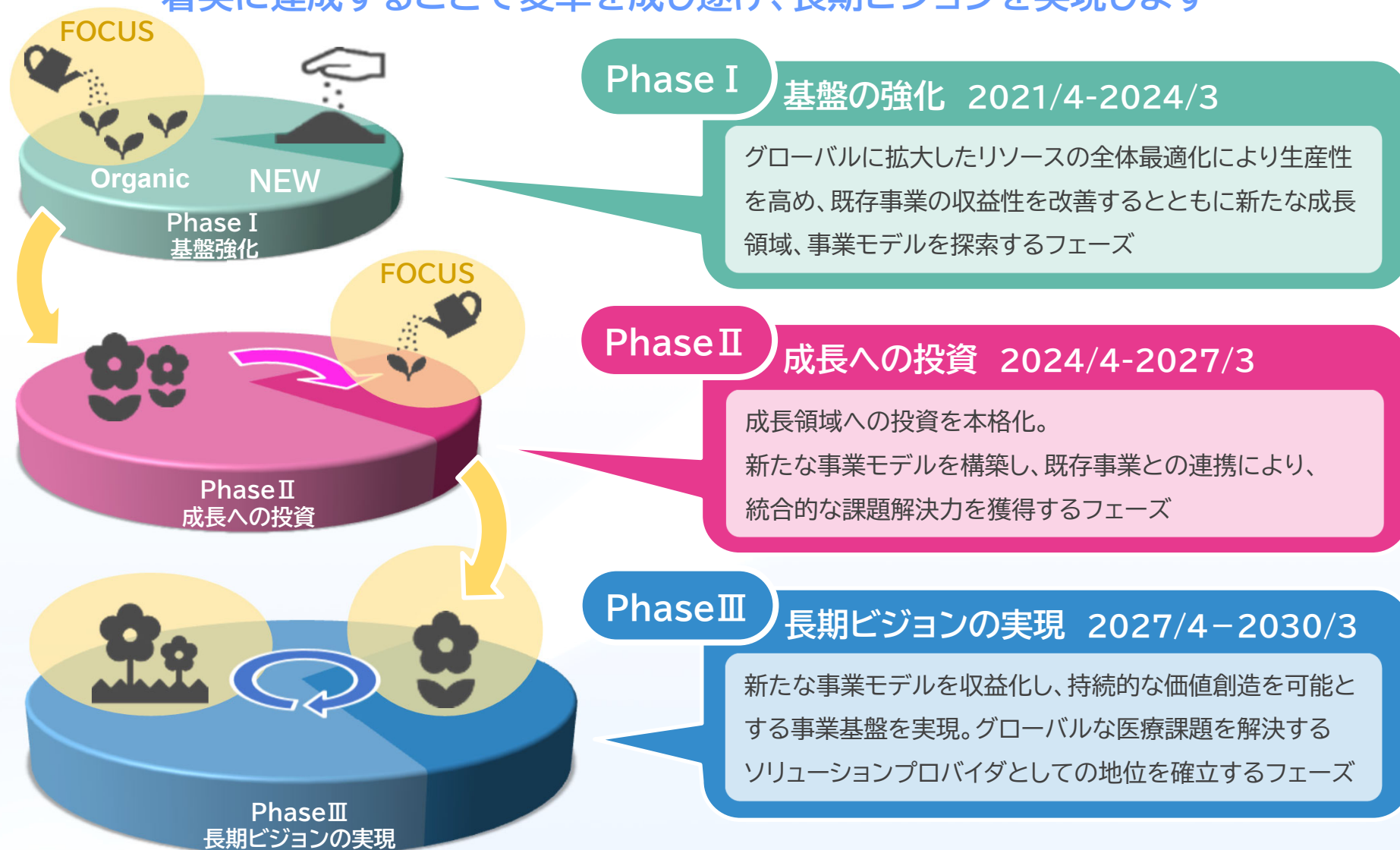
- ・ 医療の課題を解決するビジネスモデルへの変革
- ・ HMIを核としてデータから価値を生み出す価値創造モデルの実現

3 オペレーショナルエクセレンスを軸とするグローバル組織への変革

- ・ 全社戦略に基づく組織体制およびガバナンス体制の確立
- ・ グローバルサプライチェーンマネジメントを軸とする開発・生産・販売体制の確立
- ・ 重要な組織機能の集約化(COE:Center of Excellence)による、グローバルな事業展開力の強化

長期ビジョンの実現に向けた3つフェーズ

2030年3月までに3つのフェーズを設定し、フェーズ毎のテーマを着実に達成することで変革を成し遂げ、長期ビジョンを実現します



長期ビジョンの実現に向けた経営指標

グローバルな高付加価値企業を目指し、
営業利益率と海外売上高比率を経営指標とします

2030年3月期目標水準

営業利益率

15%

海外売上高比率

45%



次期中期経営計画
(2021/4~2024/3)
2021年3月末までに公表



この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】 経営戦略統括部

【連絡先】 TEL03-5996-8003